

ミドルリーダーによるチームメンタリングを活用した校内研修の実践 ～新学習指導要領の理解を通して目指す授業改善～

横浜国立大学教職大学院 教育学研究科高度教職実践専攻
片桐 大樹

1. はじめに

自校の横浜市立稲荷台小学校は研究主題である「自分の考えをもち、自ら社会参画しようとする子どもの育成」に迫るために国語科・社会科に重点を置き、研究・実践を行っている。しかしながら、研究主題に迫るための2つの視点である、①資料活用、②振り返り、についての捉え、目的、方法、評価が明らかではなく、また、教職員間で共有されていないことから、それらを反映した授業実践が難しいという課題がある。

以上の課題から、本研究の目的は、研究主題を理解・共有した授業実践ができるようになること、また課題の解決策とした校内研修の有効性について検証することである。

2. 先行研究の状況

校内の授業研究における課題について、千々布（2015）は校内研修を通したPLC（プロフェッショナル・ラーニング・コミュニティ）の形成が有効であるとしている。また、佐藤（2006）は校内における学びの共同体について論じ、教職員が主体となって実施する校内研修の充実について指摘している。

しかしながら、教職員の経験年数のバラつきが課題となっている横浜市立小学校において、教職員が主体となって実施する校内研修をこれまで通りの形で行うことは難しい。この状況に対し、脇本（2015）はメンタリングを活用した校内研修が効果的であることを論じている。また、千々布（2015）は校内研修においてミドルリーダーによる運営が効果を上げる可能性について触れている。

これらの理由から、「ミドルリーダーによるチームメンタリングを活用した校内研修」を自校の課題の解決策として設定した。

3. 解決策

ミドルリーダーによるチームメンタリングを活用した校内研修（以下「校内研修」と称する）は授業研究の日程の間の中で3回実施する。3回の校内研修の内容は順

に「学研究主題と新学習指導要領総則の関連について」、「研究内容とアクティブ・ラーニングの関連について」「研究主題に則した授業改善について」とした。また、校内研修はワークショップ形式で行い、ミドルリーダーがファシリテーターを務めながら、グループのチームメンタリングを行う。（図1）

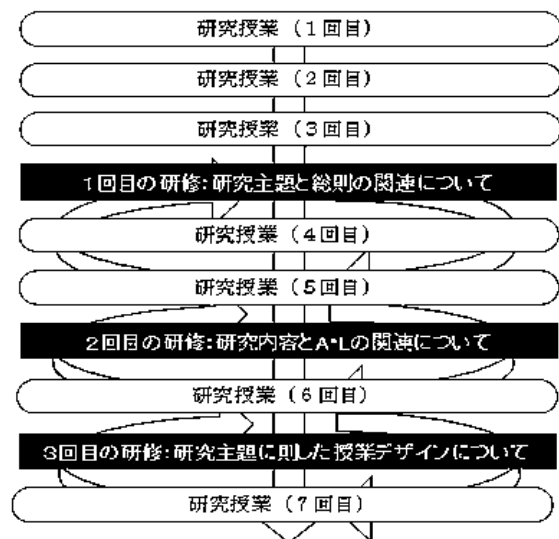


図1 ミドルリーダーによるチームメンタリングを活用した校内研修

4. 評価方法

量的分析として、質問紙法を用い、教職員とミドルリーダーを対象に研究主題にかかわる2つの視点の理解についての変容を評価する。現段階では、反復測定分散分析を予定している。

また、質的分析として発話分析を用い、研究授業の事後検討会での教職員の発話を分析し、研究主題にかかわる2つの視点の理解についての変容を評価する。現段階ではコーディングによる分析を予定している。

5. おわりに

10月末に3回目の校内研修が終わる。学校課題解決研究に関わる論文を調べながら、評価方法についてもさらに具体化していきたい。